



# 美術教育支援協会

発行・編集／事務局 〒167-0051 東京都杉並区荻窪 4-20-11 電話：03-3398-9155 FAX: 03-3398-9158  
e-mail: [info@npoaes.org](mailto:info@npoaes.org) HP: [npoaes.org](http://npoaes.org)



古今亭志ん彌  
(落語家)

## 落語と美術の出会い



谷岡 清  
(美術評論家)

平成 29 年 9 月 9 日(土)の午後 2 時から 4 時 30 分まで、杉並公会堂小ホールにて、NPO 美術教育支援協会主催・杉並区後援の「落語と美術の出会い」の会が開かれました。これは飛鳥Ⅱ世界一周クルーズに公演者として乗り合わせた落語家の古今亭志ん彌師匠と私が意気投合、「二人で何か新しいことをやりましょう」の一言から始まった試みです。当初二つの違う文化が、どのよう

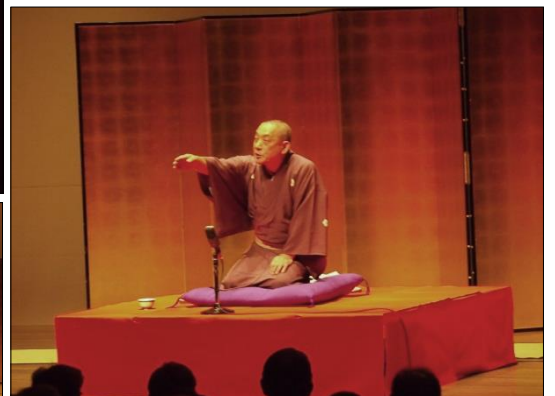
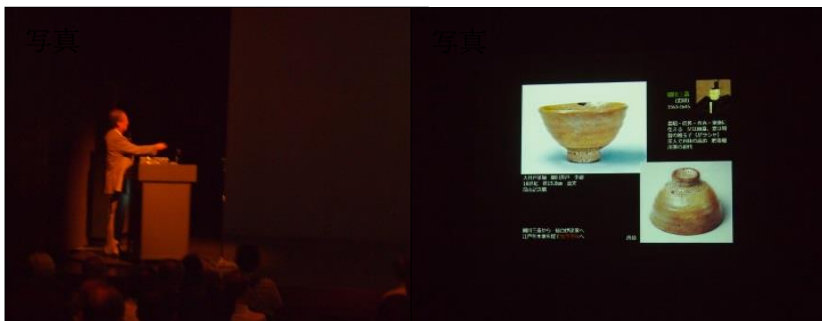
に絡み合い、どんな新しい成果を生み出せるか、やや不安な部分もありましたが、帰国してからも互いに公演を聴き合っているうちに、第一弾として古典落語の名作「井戸の茶碗」がいいのでは、と意見が集約され、具体的なイメージが次第に固まっていきました。日本陶芸史の中でも異彩を放つ高麗茶碗の井戸茶碗が、おもわぬ事態から細川の殿様の目に止まり、驚異の高値で買い上げられて、メダタシ、メダタシという楽しい噺です。前半に私がその美術的価値や伝来を講演、後半に志ん彌師匠が一席、という段取りで進めたところ、予想以上の好反響をいただき、関係者一同おおいに胸を撫でおろした次第です。これも皆様の温かいご支援と師匠のご協力のお蔭と心より感謝いたしております。その後、理事長等に宛て多くの方々から感想文をいただきましたので、NPO の新しい事業の記録として特集号にまとめました。感想文掲載のご快諾に対し改めて御礼申し上げます。なお、次回開催のご希望も多く、目下新プランを企画中です。ご期待ください。

NPO 美術教育支援協会理事長 谷岡 清



### プログラム

- ・ご挨拶 簗島事務局長
- ・美術講演「陶磁史から見た井戸茶碗の不思議」  
谷岡 清
- 中入り
- 落 語
- ・「金明竹」 橘家 かな文
- ・「井戸の茶碗」 古今亭志ん彌
- ・閉会ご挨拶



上左:簗島事務局長オープニング  
挨拶

上右・中:谷岡 清講師

下左:橘家かな文

下右:古今亭志ん彌師匠

◆谷岡先生

昨日はお疲れ様でした。井戸の茶碗面白かったです。愚生の知人が先生の公演を初めて聞いて判りやすくテンポが良くて、あっという間の時間だったと、とても喜んでおりました。素晴らしい企画に巡り合えてうれしい限りです。今後とも宜しく願い致します。まずは御礼までに。感謝！  
古今亭志ん彌

\*\*\*

◆素晴らしい贅沢なコラボ会でした！さすが飛鳥の講師陣。  
秋田アキ子

◆本日は大変楽しい有意義なひと時を過ごすことが出来ました。有り難く厚く御礼申し上げます。ここ2～3か月体調不安定（原因不明）で当日出席できるかどうか確信が持たず、あいまいな回答に終始しご迷惑をおかけしました。ところが今朝は最近に珍しく調子が良かったので迷わず出席しました。貴兄の講演を聞きたいという願いがそうさせたのではないかと考えています。井戸茶碗を切り口として縄文時代から江戸時代に至る陶芸史を一時間で時にはジョークをまじえ中身の濃い内容をたのしく聞かせた貴兄の深い学識と巧みな話術に魅了されました。志ん彌師匠も貴兄に刺激されてか大熱演をもって応じてくれたと思います。落ちも井戸茶碗で講演と落語のコラボが実現しました。企画良し、演技良し、満席の観衆もおおた満足されたのではないかと思います。今日の講演を参考に私も今後とも陶芸品を楽しみたいと思っています。 浅井千秋

◆昨日はお疲れになった事と思いますが、気持ちが良い疲れでは無かったですでしょうか。先生の講義いつもの事ながら素晴らしかったです。入り口から出口まで流れるように話を進め、陶器のマイセンを出して最後に日本人の美意識を感じさせてくれました。先生がおっしゃる通り1万年を1時間ではロケット並のスピードでした。でも、伝えたいと言う気持ちは良く分かります。志ん彌師匠も先生には負けられないと力が入り楽しかったです。ありがとうございます。 荒牧早苗・佳子

◆陶芸史から見た井戸茶碗の不思議の講演に参加させていただき、私は陶芸知識はテレビで見るとも鑑定団くらいです。谷岡先生の陶芸史を時代別にスライドで解説いただき大変面白かったです。中でも井戸茶碗と天目茶碗のスライドが良かったです。 猪俣政幸

◆満員の盛況でおめでとうございます。短い時間のうちに日本陶芸史の見事なレジュメをお聞かせ下さりありがとうございます。私の驚いたのは正倉院の三彩鉢で、轆轤が右回転なので日本製だと分かるという話でした。スライドのリストもとてもよくできていましたね。志ん彌さんも初めて伺いましたがとてもお上手な方ですね。前座もよかったです。わたしたち二人とも大変満足して帰りました。ありがとうございます。 大島真木

◆9日はお世話になりました。嬉しいひとときを過ごすことで、皆喜んでおりました。寄席とは異なる雰囲気があり、どこかコンサートホールに行った感じ、と喜んでいました。翌10日の読売に井戸茶碗の記事が掲載され、わざわざ連絡をくれた者もいました。井戸茶碗という一つの美術品を貴殿の卓越した審美観と志ん彌師匠の話芸が相俟って貴兄の志向する真髓を垣間見た気がして、本当に面白かったです。有難うございました。 小木曾高佐

◆素晴らしいお話を聞かせて頂き、感動して・・・あの時間内に あの内容の凄さ！ 密度の濃い！それこそ伺っている方も「息継ぎを忘れそうなくらいで。」陶芸は私が石川県生まれという事も有り 興味深いテーマでした。でも、皆様のお話では「色々な事に素晴らしい先生！よ」との事！  
沖谷 邦

◆この度は、ご講演を拝聴させていただき、誠に有難うございました。とても盛り沢山に充実したお話で、勉強させていただきました。落語も品良く楽しくございました。又、次の機会にはよろしく願い申し上げます。 音丸瑠美子

◆私は谷岡先生の6月の浮世絵の講演に初めて参加させて頂きました。それまでには一般的な知識もなかったのですが、先生の解りやすいウイットに富んだ解説で興味が湧き楽しんでいきます。9月9日の先生の講演もまた、豊富で鮮明なスライドをご用意され陶芸史の楽しい口調の解説はとても面白く奥深い歴史を感じました。志ん彌師匠の落語は、谷岡先生の講演の予備知識があったので尚更に聞き応えがあり、その歯切れの良さと勢いに引き込まれました。周りの方々からも、次回を期待する声が聞こえていましたので、又の機会をお待ちしています。スタッフの皆様、企画から開催まで大変お忙しかったと思います。ありがとうございました。今後とも是非参加させて頂きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。 片岡麻利子

◆今日の講演会、ご盛会でおめでとうございます。とても充実して最後に落ちがつき楽しい時間を過ごすことができました。この会がシリーズ化して恒例になるといいですね、また楽しみが増えます。古代から現代に至る世界の陶芸の流れをたった一時間で解説され、さすが谷岡先生と思いました。お陰様で孫も大変勉強になったと喜んでおりました。今日は、有難うございました。 北林信子

◆陶芸と落語の楽しい会をありがとうございました。陶芸についての長い歴史についてのレクチャーは、ほとんどそちらの知識のない私にとってもわかりやすく、とても興味深く拝聴しました。ただ、そうした基礎知識がないかなしきで、なぜ、あまり変哲もなく見えるその茶碗が高く評価されるのかについては、よくわからないところがあったのも確かです。そのうえ、私は別の陶器の壺をうる覚えで知っていたので、実は落語が始まってから、あれあれと思っていました。帰ってから調べてみると、私が聞いたことのある壺は、「猫の皿」というので、やはり絵高麗の梅鉢の茶碗を扱ったものであるとわかりました。このように、古くからの陶器を扱った壺はまだいくつもあるのかもしれない。一度にはできないでしょうが、何回かシリーズで続けて下さると系統的にいろいろなことを知ることができるよい機会だと思います。落語は、ある程度、歴史的なことや、古い生活の知識がないとわからないだろうなあ、と私のような年齢のものでさえ思われますから、若い方にはもっとそうだろうと思います。たとえば能では、解説付きの演能も多くなっているようです。今回の陶芸と落語のようなシリーズは、ありそうでなかった企画ではないでしょうか。ぜひこれからも続けて下さると嬉しいです。スケジュールが合うことを願いつつ。 草田照子

◆友人からのメールで大兄の落語コラボの報告あり、井戸茶碗について柳宗悦の説を紹介したとのこと、小生合点です。宗悦は自分の住む我孫子に居住していた親近感から愛読しています。井戸茶碗は民芸品を愛した宗悦の頂点に位置し、同時に茶器販売で巨利を得た千利休批判の象徴でもあると自分は思っています。コラボに参加できず残念でした。



小生はニューヨークで茶道教室を開いた表千教授の家内と共に表千家同門会の米国東部支部設立に関与したことから京都の家元本部と懇意となり、利休ゆかりの茶席「不審菴」にも座し、大徳寺聚光院にある千利休の墓参りの機会にも恵まれました。利休の偉大さと利休が築いた茶の湯の利点は十分に理解していますが、宗悦の説もまた首肯できます。所詮人間は清濁、善悪等併せ持つ複雑な構造から成り、一方的に断ずる難しさを示唆する一例ではないでしょうか。

小池康夫

◆「落語と美術の出会い」は、とても面白かったです。私は落語を聴いたり、絵画を観たりすることが好きな方ですが、今回のようなコラボは初めてでした。谷岡先生の解説は、縄文時代から始まるという盛りだくさんな内容で、すべてを理解することは難しかったのですが、たくさんスライドも使って様々な陶器を解説していただき、陶芸に興味を湧きました。お茶を入れてみる、という先生のユーモアも楽しく拝聴しました。日本人の繊細な美意識のため、長い間、大切にされてきたのでしょうか。志ん彌師匠の井戸茶碗もよかったです。良い斬で、井戸茶碗の解説を聴いたためさらに興味深く、聴き入りました。今回のように楽しいコラボの企画、これからも楽しみにしています。

小島順子

◆講演会はとても面白く拝聴いたしました。あれだけの内容をあの時間でそれもリラックスさせる笑いも盛り込んでくださり、縄文からの流れがよくわかりましたし、綺麗な写真がたくさんで、名器に緑のお茶が入った様子もとても新鮮で想像が深まりました。師匠のお話への期待も深まり、師匠のお話の際には谷岡先生のお話を思い出したり、と、素晴らしい会でした。ありがとうございました。

後藤 泉

◆昨日の落語の企画大成功でした。心からお喜び申し上げます。井戸の茶碗は高麗茶碗で茶器として珍重されたぐらいしか知りませんでしたが、先生の講義を聞いてその素晴らしさがわかり、志ん彌の落語が数倍面白く聞けました。

湖東善明

◆先日は楽しい企画をありがとうございました。みなさん真剣に聞き入っていて、会場に熱気がみなぎっていました。そして、曜変天目茶碗にお茶の入った画はととてもとても斬新でした。まだまだ知らないことばかりでお恥ずかしい限りですが、アカデミックな土曜の午後？となりましたこと、御礼申し上げます。

小松崎有子

◆美術と落語のコラボのご成功、おめでとうございました。聞きたい、見たいと言うお客様をお断りしたほど、初めてという大成功を嬉しく聞きました。

清水達雄

◆コラボは大盛況で驚きました。おめでとうございます。貴兄のお話は素人の私にもわかりやすく、たいへん勉強になりました。縄文時代からの変貌の歴史がすこしはわかったのでしょうか。ありがとうございました。

洲崎良和

◆昨日は、満席の【講演と落語の会】で、杉並の皆さんとの「いい仕事」を堪能させていただきました。かつての荻窪住人としては、羨ましいくらいでした。ありがとうございました。撮影がすごいですね。同期の友の卒業後数十年の活躍や成果を直接に見聞きすることは、病気の話よりタメになり嬉しいです。

鈴木宙明

◆美術と落語、楽しみました。こんな時でない、落語をちゃんと聞く機会がありませんので。高草木稔・多佳子

◆本日は落語と美術という不思議なコラボの会を大変面白く参加いたしました。日本の焼き物だけでも 歴史や変化、文化があり充実した一時間でした。落語も良いものですね。江戸言葉がじっくり体に入って、やっぱり日本人だわ〜と再確認しました。有難うございました。

高橋幸子

◆先生のやきもののお話、歴史が解かり友達も勉強になったと喜んでおりました。願わくばもう少しゆっくりとお話を伺いたかったと申しておりました。志ん彌さんの落語も大変素晴らしかったと思いました。「神保町」での先生の御講義の時、見えていらっしゃいましたが、地味な感じの方だなあと感じておりました。高座に上がられた時、まさにプロの落語家さんだと、びしっときまっておいでなのでびっくりしました。くず屋さん（私の子供の頃よく町内に現れ、あのかげ声なつかしかったです…）の語り口が見事で情景が浮かび、隣の友達と涙流しながら大笑い致しました。吉祥寺で時々落語を聞きにまいります、今度の様にじっくりと聴かせて頂く事が少なく、本当に楽しい半日でした。また是非この様な企画を計画して頂きたいと思いました。

竹澤登貴子

◆当日は楽しませて頂き、充実した一日でした。日本の焼き物の歴史を一度に見る機会はなかったので、短い時間で概観できて勉強になりました。スライドが鮮明・綺麗でとても良かったです（小生には字が少し小さい部分がありましたが）。落語との組み合わせも面白いと思いました。また、機会がありましたらお誘い下さい。

田中秀幸

◆本日はとても有意義な一日になりました。ありがとうございました。お茶碗の歴史についてご講義いただいて、大変興味深いものだと知りました。落語の最後に出てくるお茶碗ですが、会場の皆さんが全員同じお茶碗をイメージしたのは、史上初だと思います。素晴らしいコラボ、感激でした。ありがとうございました！

谷岡琴子

◆9日の会のご成功おめでとうございました。ユニークな企画でとても楽しい会でした。いつものことながら、濃厚な中身の先生のご講演には感服いたしました。松本から来た浦野さんもすっかり感激して「やっぱり東京はいいですね」と羨ましがることしきりでした。帰ってきてさっそく九谷焼の茶碗で復習を。また、会場では懐かしい飛鳥の船友にも会うことができ嬉しかったです。落語も迫力を感じました。昭和の名人落語集のCDで予習をしたのですが、今一でしたが納得できました。とてもとても楽しい時間でした。ありがとうございました。

登坂有子

◆谷岡兄 お帰り、お疲れさま。そして、おめでとうございます。残念ながら出席できませんでしたが、美術と落語という異色のコラボの講演寄席、満席の大きな拍手を浴びたに違いないと想像し、お喜びを申し上げる次第です。船旅で意気投合されたお二人だけに、きっとお客様を楽しませたに違いない、余韻を引きずってご帰還されたことでありましょう。それにしても、このアイデアは素晴らしいと思う。新しい文化の創造、と言っても言い過ぎではないのではないかな。美術教育に楽しい、かつ静かな語りを入れた舞台が先に考えつかれたのだろうか、こうしたコラボ、共存の舞台は貴兄から案内をもらって初めて知り、大袈裟に言えば驚いたものです。かような新しい試みができて始めて文化の香りは広がるように思えます。人生は出会い、という。古今亭志ん彌師匠との出会いもまさにそれだね。大切にされてまた次なる出し物を寄り合い話し合われると、さらに世界が広がりますね。実は最近、語り、聞かせるお話しってなんだろう？と考え込んでいました。近頃は見なく

なった笑点にしろ、われら芸人と称する人達にしろレベルの低い笑いやダジャレに辟易、これでこれからの若者がそんな渦の中で育つとしたら大変だ、と思っているものだから、貴兄の挑戦行動がさらに皆さんの文化への渴望に応えて行って欲しいと激励を込めて応援します。 中空善彦

◆昨日は大変な盛況で驚きました。おめでとうございます。スライドショーはとても良かったのですが、席の位置のせいか、マイクの音響効果が悪く、残念ながら先生のご講話はよく聞こえませんでした。志ん彌さんの話は大変面白くて、久し振りに腹をかかえて笑いました。有難うございました。 中村義裕

◆何時も素晴らしい講演を聞かせて頂き只々感銘しております。これから、御身体をご自愛下さいまして、長く先生の講演会が続きます様をお願いします。 西野宗武

◆お蔭様で、楽しいひと時を有難うございました。先生のお話は、基礎知識のない私にとって分かりやすく、ユーモアを交えながらの内容、おもしろかったです。落語とのコラボが良かったです。師匠の迫力に驚き、才能と努力に感心しました。 西村雅代

◆本日はお疲れ様でした。大盛況でしたね。楽しい会でした！志ん彌師匠はさすがでした。愛嬌のある紙くず屋に、男気のある高木作左衛門、真面目な千代田ト斎、目の前にその情景が浮かんで見えましたね。帰りもご挨拶させて頂きありがとうございました！本当に楽しい会でした。次回もすぐに開催される事を期待します。あ、前の人のお話が面白かったのは、かな文さんではなく、谷岡先生の事でした。話の組み立てが面白く、あまり馴染みのない陶磁史についても興味深く聞くことができました！ 本間千恵

◆先週土曜日 9月9日、杉並公会堂で、同期の簗島さんが中心の団体「NPO美術教育支援協会」主催で、「落語と美術の出会い」というユニークな講演会が開催されました。講演は2つ。協会の谷岡さんによる美術講演「井戸茶碗の不思議」と落語真打の古今亭志ん彌師匠の落語「井戸の茶碗」です。共通のテーマである「井戸茶碗」というのは、戦国時代に朝鮮半島で焼かれ当時の庶民の飯茶碗であったものですが、いつか大名も狂喜する茶道の名器としてもてはやされるようになったものです。詳しい話は省略しますが、美術と古典落語が結び付いて面白くあつという間の2時間の講演会でした。杉並公会堂のホールが数百人の参加者で満員となる盛況でした。簗島さんは、開会挨拶と進行を立派に務めました。お疲れ様でした。なお簗島さんの団体では、土曜フォーラムという別の講演シリーズで、「世界の美術館の旅」というのも推進しています。杉並の地域文化活動におおいに貢献されていることに敬意を表したいと思います。 宮下英雄

◆落語と美術の出会い 素晴らしかった！ 大成功！ 矢野昭二

◆昨日は、実は親族の集まりがあり、夕刻までに帰宅しなければならぬ事情があり、落語の方は失礼しました。落語も好きで我が家には古典落語のCDがやまほどあります。いただいた資料で、あの講演のために貴兄がいかに真摯に取り組まれていたかがよくわかりました。改めて貴兄のこの分野での造詣の深さを知った次第。写真も多くは自分で撮っているのですね。隣席の女性は双眼鏡を用意していました。スライドの情報をしっかりと理解していました。あるいは貴兄の講演の「追っかけ」の一人でしょうか。主催者が喜んでいましたね。大変な盛況でした。こうした機会

をいただいたことに、改めて感謝。 よしだ とよあき  
【五十音順/紙面の都合上改行は詰めさせていただきました】

\* \* \*

## 《 NPO の理事・スタッフからの報告 》

◆「落語と美術の出会い」では、落語開口一番は橘家かな文さんの「金明竹」。道具屋での与太郎、店のおかみ、加賀屋佐吉方からの使いの者の難解な口上を早口でテンポよく話し笑いを誘う。掛軸「古池や蛙飛び込む水の音」を伏線に「買わず」のサゲで爆笑の渦。庶民が美術骨董、俳諧川柳等を享受、理解しているからこそその笑い、落語といえよう。かな文さんの上手さも光り、会場があたたまる。それを受けての志ん彌師匠の「井戸の茶碗」の熱演での締めくくりは秀逸でした。日本の伝統芸能の歴史は、能600年、文楽500年、歌舞伎400年、落語・講談300年、浪曲150年といわれている。伝統芸能と美術のコラボでの企画を今後も展開していきたい。今後もお誘いあわせてのご来場を心よりお待ちしております。 理事 青木修

◆当日は受付のお手伝いをさせていただきました。初めての落語とのコラボでしたが、人気の講師の講演ということもあり、当日は満席となっております。ご予約の方のチケットのお渡しや、開場から開演までの短時間でのスムーズな運びは難しいのではないかと心配しておりました。が、案ずるより産むがやすし。開場の時間までにいらっしゃったお客様は、狭い通路にもかかわらず、綺麗に並んでくださり、指定席ではありませんでしたが、皆様順番に入ってください、開演時間までには、ほぼ皆様席についていただくことが出来ました。お蔭さまで、私も講演をほとんど聴くことが出来ました。ご来場いただきました皆様のご協力本当にありがとうございました。 岡田純子

### ◆御礼◆

例年の美術土曜フォーラム4回シリーズに加え杉並公会堂小ホールでの催しを過去に2回試みて参りました。初回、二回は「世界の名画」と「ピアノコンサート」のコラボレーションでした。今回、方向を変えて「芸術」と「落語」のコラボが企画され、演者の谷岡理事長と志ん彌師匠の名演と相まって成功裡に終えることが出来ました。感想をお寄せいただいた参加者の皆様のお声に成果の糧が如実に反映されており大変嬉しく存じます。これだけご好評をいただいた上は、当NPOとしては本企画の第二、第三のシリーズ化を計り、皆様のご期待にお応えして参りたいと存じます。ご感想をお寄せいただいた皆様からのおほめの言葉に励まされ、今後の企画に反映させて参ります。変わらぬご愛顧を当NPOにお寄せくださいませ。

事務局長 簗島紘一

出演者/スタッフ (敬称略)  
企画・谷岡清/古今亭志ん彌/青木修/簗島紘一  
出演 (出演順)・谷岡清 (美術評論家) /橘家かな文 (前座)  
/古今亭志ん彌 (真打) 司会・簗島紘一  
会場・杉並公会堂小ホール 会場写真・片岡麻利子  
スタッフ・簗島紘一 (NPO 事務局長) /青木修 (NPO 理事)  
明石正彦 (NPO) /岡田純子 /日吉恵子 /飯野光男 /  
猪俣政幸 /片岡麻利子 /